

防災の豆知識

川の上流の天気予報に注意!

十勝川の上流や札内川の上流で大雨が降ったときや、市街地でゲリラ豪雨が降ったときは、急に川の水が増えることがあります。川で遊ぶときは天気予報を確認しつつ、近くでゲリラ豪雨が降り、川の水が増えそうなときは早めに川から離れましょう。

避難する場所は高いところ、 【洪水が起こっても浸水しない】場所に!

自治体が指定している避難場所は洪水のときだけではなく竜巻や地震等の災害のときの避難場所になります。そのため、避難場所によっては洪水のときに1階まで水につかる場所もあります。各自治体のハザードマップを見て、避難場所が浸水する場所かどうか確認し、できれば浸水しない高台にある場所に避難しましょう。

空振りになってもいいから逃げましょう!

洪水は竜巻や地震と違って突然発生するのではなく、大雨が降り続いたときに発生するので、避難する時間は十分にあります。雨量や川を流れる水の量、ダムからの放流情報、自治体からの避難情報を確認し、「洪水が発生する可能性がある場合」は早めに避難しましょう。

洪水情報やダムの放流情報は スマホで見られます!

札内川や十勝川を管理している国土交通省北海道開発局では、ウェブサイトで洪水に関する情報を公開しています。大雨が降ったときはスマホやパソコンで以下を検索してみてください。検索キーワード:「国土交通省 川の防災情報」のウェブサイトをご覧ください。最新の洪水情報を知りたいときはこちらまで!



札内川に関する関係機関・施設連絡先

<札内川について>

帯広河川事務所 TEL:0155-25-1294

<札内川ダムについて>

札内川ダム管理支所 TEL:0155-69-4666

<ピウタンの滝および札内川ダム上流方面の通行止め情報について>

十勝総合振興局 帯広建設管理部
用地管理室 維持管理課 TEL:0155-26-9212

※ピウタンの滝から上流は雪崩や土砂崩れのために通行止めになることがあります。通行止め情報を知りたい方はこちらまで問い合わせください。

編集・発行/札内川懇談会





札内川懇談会 座長
いしはら ゆみこ
石原 由美子

札内川は日高山脈の札内岳を源流とした、水のきれいな河川として知られています。日高山脈をバックにしたダイナミックな景観は、札内川の大きな魅力の一つです。

札内川には様々な多くの魅力があります。私たち「札内川懇談会」は、その魅力を発掘し地域活性化につながる活動ができればと色々な模索をしてきました。

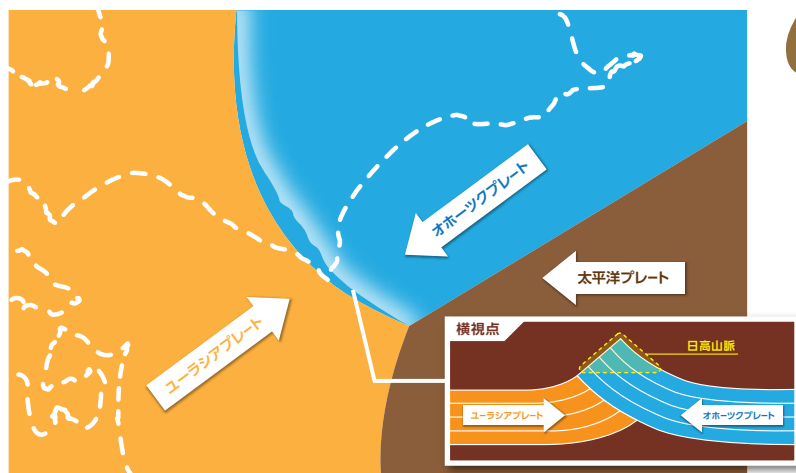
そんな札内川を多くの方々に知っていただきたいという想いを、一つの形にしたのがこのリーフレットです。札内川の魅力はまだまだたくさんありますが、今回は気軽に持ち運びできるようコンパクトな形でまとめました。

このリーフレットを片手に、札内川をさらに知っていただければ幸いです。

知ってる? 札内川ってこんなところだよ!

【札内川の水が流れてくる日高山脈って?】

札内川の源流の日高山脈は、約1000万年前に東側にあったオホーツクプレートと西側にあったユーラシアプレートがぶつかり、盛り上がってできました。



※歴史サイン「十勝の成り立ち」(音更町)を一部改変

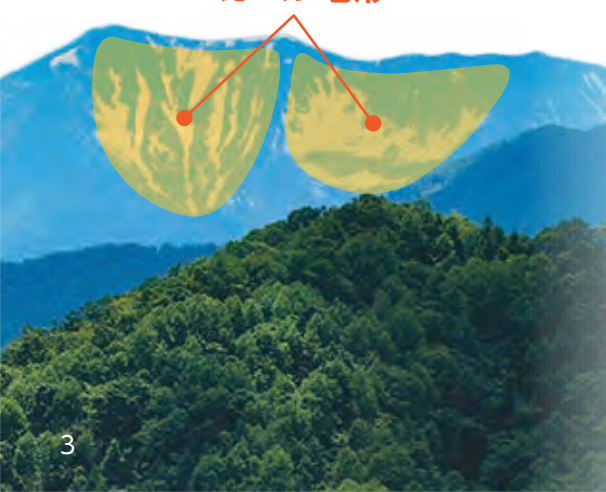


フクロウ博士
札内川周辺に詳しいフクロウ。豆知識や生き物について教えてくれる。



【日高山脈にある大きなくぼみって?】

カール地形



スプーンで削り取ったような地形は「カール」といい、氷河時代に氷河が山を削ってできました。

中札内市街から上札内地区に向かう途中によく見えます。残雪が残る6月が見ごろで、一本山展望台に登ると一層きれいに見えます。

カールの残る山は日本国内では日本アルプスと日高山脈の東側だけ、しかも平地からみられるのはとても珍しいです。

【川なのに水がなくなる場所がある!】

札内川の川底は厚い石の層になっており、7月~8月頃の雨が少ない日は水が地下に潜ってしまい、中札内橋から上札内橋の間で川から水がなくなる場所があります。



あちこちにできた水たまりを見てもいいよ!



豆知識

札内川の「札内」はアイヌ語の「サツ(乾く)・ナイ(川)」からきているんだよ。



【札内川の美味しい水はどこからきているの?】

地下にある厚い石の層の中を水が通ってくるので、自然にろ過されてきれいで美味しい水にしてくれます。

札内川の水は帯広市や音更町、幕別町、芽室町、池田町、中札内村、更別村の水道水に使われています。

豆知識

札内川は清流日本一に何度も選ばれているよ!



知りたい?

札内川に住んでいる
生き物たちのこと。

【札内川にはヤマメがいるよ!】

2007年、十勝川に新しい魚道ができたことで、札内川にもサクラマスが遡上して卵を産むようになり、ヤマメが増えました。

産んだ魚はサクラマスでも、孵化した魚が川にいるうちはヤマメとよばれます。



ヤマメとサクラマスは
同じ魚だったんだ



1年後に川に
戻ってきて卵を
産むよ!



サクラマス

産卵の時期が
近づくと身体が
赤くなるよ!

海から川に遡上したものも
サクラマス

僕たちはずっと
川で過ごすよ!



ヤマメ

ここまではヤマメ
(ヤマメは一生を川の中で過ごします)

海に下ったヤマメは
サクラマスとよばれるんだよ!



サクラマス

ヤマメが海に出たら
サクラマス

サクラマスは海で成長してから
産卵のために遡上します。
(海にくだってから約1年後)

札内川にはこんな生き物がいるよ!

詳しく知りたいときは、下のQRコードで見えてみてね!

魚たち



ハナカジカ



オシオロコマ

札内川には【ハナカジカやオシオロコマ等の魚】がいるよ。

チドリ仲間



イカルチドリ



コチドリ

河原には【イカルチドリとコチドリ】の2種類のチドリがいるよ。

ケショウヤナギ



ケショウヤナギ



氷河時代の遺存種といわれているヤナギの仲間、日本では北海道と長野県でしかみられないんだって!

白く粉を吹いたような若い枝と、冬には枝が赤く色づくことから「化粧」をしているようだから「ケショウヤナギ」という名前になったんだよ。

セキレイ仲間



ハクセキレイ



セグロセキレイ



キセキレイ



河原には【ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ】の3種類のセキレイがいるよ。

教えてあげたい! 札内川で できる遊び。



【冬(厳冬期)のスノーシュートレッキング】

1月中旬～2月上旬の厳冬期、上札内橋の辺りでは川の水がほぼ凍りつき、スノーシューを履いて川の上を歩くことができます。

川周辺の雪に残されたキツネや野ウサギの痕跡から、動物たちのドラマを想像してみたいはいかがでしょうか?



スノーシューを履いて雪原を歩きます。

足跡のない雪原や水面が
出ている場所を歩き回ります



野ウサギ(エゾユキウサギ)の足跡



野ウサギは夜行性だから姿を見る機会は少ないけど、雪の上には足跡がたくさん!

うさぎが向かって
いる方向

夏は全身
茶色になるよ



冬は耳の先が
黒くてあとは
真っ白だよ



【帯広川(札内川の支流)ナイトリバークルージング】

「十勝ナイトリバークルージング」

開催時期: 一年中

問合せ先: サムライブロデュース TEL:0155-66-4006 / FAX:0155-66-4133

帯広市街を流れる札内川の支流のひとつ、帯広川下流では夜の川をボートで下るナイトクルージングが1年を通じて行われています。

夜の帯広川をゆったりと下り、静けさの中に響く水の音や風の音、動物たちの声など、リアルな自然の音に囲まれて自然を満喫できます。



スポーツ文化ツーリズムアワード2018「チャレンジ部門」受賞
第5回 JAPAN TOURISM AWARDS 受賞
第15回 エコツーリズム大賞 特別賞受賞



行ってみよう! 札内川の上流には こんな場所があるよ!

① 札内川ダム



札内川の上流まで行くと、道路から札内川ダムが見られます。ダムの長さ300m、高さは114mあり、美しいダム湖が広がっています。ダムの中ではワイン、日本酒、コーヒー豆の熟成が始まりました。どんな味になるのか楽しみです。

札内川ダム

開館期間: 通年
開館時間: 10:00~16:00
入館料: 無料
問合せ: 0155-69-4666
(札内川ダム管理支所)

※職員による案内見学については事前申し込みが必要です。



② 「ピョウタンの滝」園地



「ピョウタンの滝」は、元々は農家たちによって造られた発電用のダムでした。昭和20年代、未だ中札内、更別の一部の農村地区には電気が供給されておらず、農家たちはお金を出しあい昭和29年に小水力発電所「農協ダム」を作りました。しかし完成した翌年の昭和30年7月、豪雨による札内川の氾濫でダムは一夜にして埋没してしまい、発電ダムとして使用できなくなりました。

その後、「ピョウタンの滝」と名付けられ、中札内村の観光地のひとつとなっています。ここには、日高山脈の自然や歴史を学ぶことができる「日高山脈山岳センター」とキャンプ場が整備されています。



③ 一本山展望タワー

西札内地区には十勝平野や日高山脈のカールを一望することができる「一本山展望タワー」があります。

しかし、展望タワーへ向かう道にはなんと352段の階段が待っています。



雪の残っている場所がカール



一本山展望台

開館期間: 5月上旬~10月末 ※積雪期は閉鎖

札内川園地キャンプ場

開館期間: 4月下旬~11月上旬

日高山脈山岳センター

開館期間: 4月下旬~11月上旬

開館時間: 10時~17時

②③について詳しく
知りたいときはこちら



「道の駅なかさつない」に寄ってみよう!

地元産の食材を
食べたり
お買い物しよう!



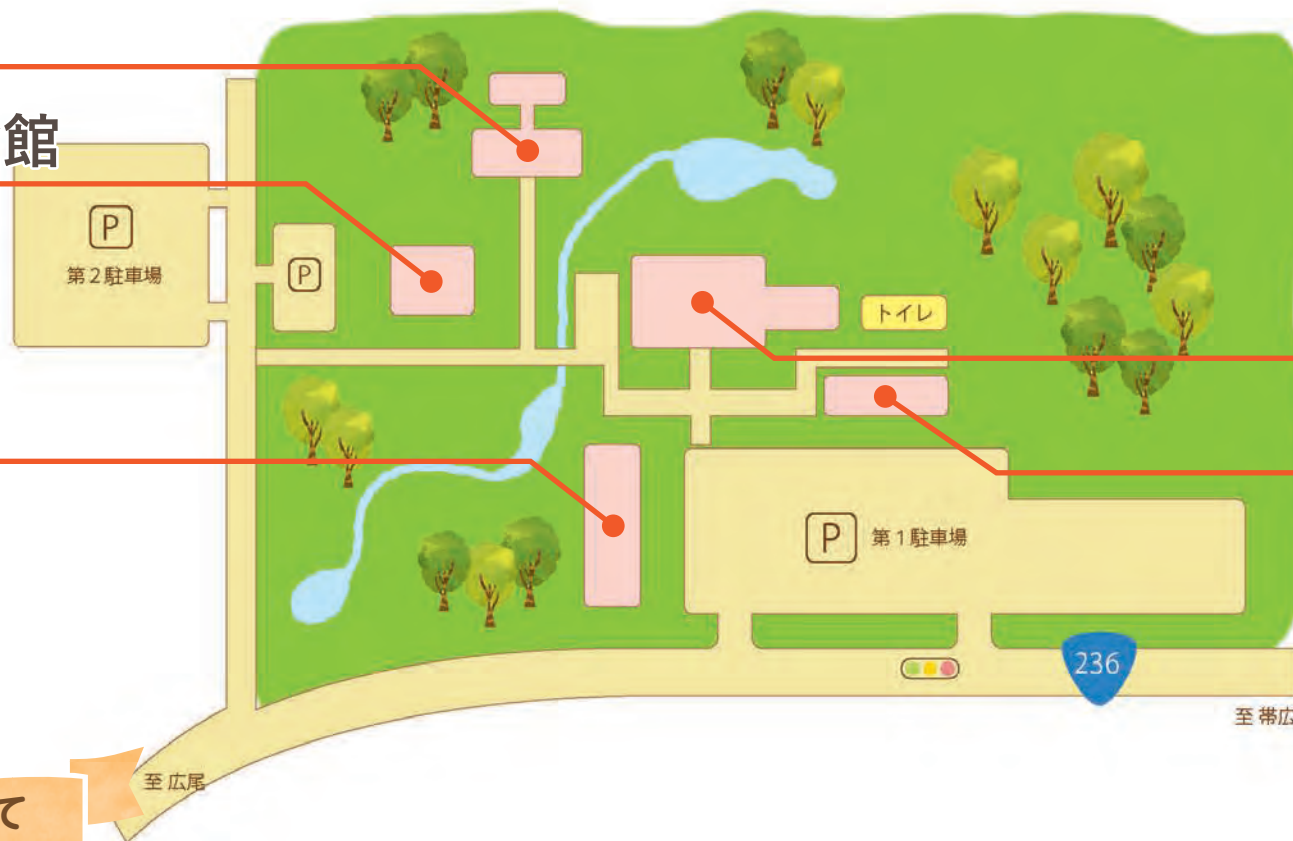
① 豆資料館

② 開拓記念館

③ 花水山

④ カントリープラザ

⑤ イベントコーナー



施設について

- ① ここは豆をこよなく愛する人物「豆畑拓男氏(ビーンズ氏)」の家だよ。世界中の豆に関する資料館で、家の中をめぐりながら豆に関する様々な資料を見学して豆に親しもう!
- ② ここは明治時代から昭和63年まで実際に使用していた旧開拓農家住宅を移築・復元した建物だよ。入植当時の昔懐かしい生活品も展示しているよ。
- ③ 地元の卵や野菜等の農産物を買ったり、軽食を買って食べることができるよ。

- ④ ここには地元の食材を使った美味しい料理が食べられるカフェレストランで食事をしたり、地元の物産を買うことができるよ。
- ⑤ 雑貨屋さんと美味しいから揚げ屋さんがあって、近くにある広い芝生の中のベンチや東屋で休憩しよう。

道の駅なかさつない

〒089-1330 北海道河西郡中札内村大通南7丁目14
【営業時間: 9時00分~18時00分】



行ったことある？ 札内川周辺の観光ガーデン

※北海道ガーデン街道に含まれる観光庭園です。



①真鍋庭園 帯広市稲田町東2-6

カフェ

日本初の針葉樹がメインの庭園で、北海道スタイルの日本式庭園と歴史ある建物が融合。

【休園期間】12月～4月下旬

帯広駅から車で約10分 / TEL:0155-48-2120



②十勝ヒルズ 幕別町日新13-5

レストラン

ショップ

札内川と途別川の間の丘にある、季節の花が咲く庭園。自家栽培の野菜と十勝の「農と食」を身近に感じる食事を楽しめ、庭園で育った花や農産物とジャム等の加工品を購入できる。

【冬期休業する場合あり】

帯広駅から車で約20分 / TEL:0155-56-1111



③紫竹ガーデン 帯広市美栄町西4線107

レストラン

無農薬で育てられた園芸植物のガーデン。ペットと一緒に散歩可。ガーデン内で育てられた野菜を使った料理を楽しめる。

【開園期間】4月第3土曜～10月下旬

帯広駅から車で約30分 / TEL:0155-60-2377



④六花の森 中札内村常盤西3線249-6

カフェ

札内川のほとり、季節折々の美しい草花が咲く六花の森。ギャラリーには六花亭の包装紙に使用されている花の絵等を展示。

【冬期休業する場合あり】

帯広駅から車で約40分 / TEL:0155-63-1000



※「北海道ガーデン街道って？」

大雪～富良野～十勝を結び約250kmの街道で、北海道ならではの美しい8つのガーデンが集中しています。いずれも個性にあふれ、力に溢れた庭づくり・景観を展開する日本を代表する観光庭園です。また、自然の風景や山並みとともにアクティビティや豊かな食も堪能できる観光ルートです。上記の他に「大雪森のガーデン(上川町)」、「上野ファーム(旭川市)」、「風のガーデン(富良野市)」、「十勝千年の森(清水町)」があります。



札内水源の大鹿

十勝川の支流の札内川は、その源を日高山脈から発している。サツナイ川とは水の乾くという意味だが、東南の風が吹けば川水は増し、平時は極めて水量少なく、夏にはしばしば乾く場所さえ生ずるのでこの名があるという。昔、この川の奥で天地を震わせる響きが聞こえたので、アイヌ達は手に弓矢を携えて山奥へと進んで行った。すると一匹の大鹿に出会った。みなでこれを乱射したが重量数十斤、数十人の力でも容易に運ぶことが出来なかった。やっとのことで川まで運び出すことができたが、あまりに鹿が大きいため水がせき止められ、たちまち水が枯れてしまったという。

※「サツ(乾く)・ナイ(川)」

工藤梅次郎「アイヌ民話」より

日高山脈の大鹿

シベチャリ

昔、染退川(静内川)支流のメナシベツ川水源、十勝の国境となる深山に大鹿が棲んでいた。あるとき十勝側の猟師が、大鹿を捕獲するため山を登り、染退アイヌとちょうど国境で出会った。そこで双方協力して、この大鹿を獲ることができたが、あまりに巨大で運搬に困った。仕方なく両者が国境の山頂で立ち会って、大鹿を胴切りとし半分は十勝国の札内の沢に、半分は染退川上流の沢に切り落とした。ところが、染退川の沢に落とした鹿の体が巨大なため、沢口を塞ぎ、下流一帯の水を涸らしてしまった。この沢の付近をサチシベチャリと名付け、後世この川を染退川と命名したのも、これによると云われている。

北海道庁「北海道の口碑伝説」より

札内川にまつわるアイヌ民話

札内川懇談会メンバーから一言



十勝川の生態系再生実行委員会
いしがき あきら
石垣 章

札内川のヤマメ

今、札内川にはヤマメが多く見られるようになりましたが、札内川懇談会開催当初(2012年頃)の札内川は大型ニジマスの宝庫として北海道の釣り雑誌「溪流釣り北海道」に取り上げられるほどでした。

十勝川では2007年に千代田新水路が完成し、多くの魚種が遡上しやすいよう工夫された魚道が造られました。

千代田新水路の魚道には川を横から見られる施設(ととろーど)で遡上する魚を観察できます。新水路魚道完成以降は色々な魚が上・下流を行き来出来るようになったことと2016年の台風の影響で十勝川全域の川が攪乱されたことによりサクラマスの産卵場所、ヤマメの生息域がより広範囲に形成されたものと推測されます。この魚道を登ったサクラマスが札内川にも遡上するようになったことで、札内川のヤマメも増えてきました。

十勝川水系では長年にわたる洪水対策によって掘削・直線化されましたが、近年は魚類の生息しやすい河川へと自然を取り戻しつつあるようです。



帯広ウチダザリガニ・バスターズ代表
かがみ ひろし
鏡 坦

川底で冬眠するカエル

厳冬期の札内川上流(上札内あたり)。凍結していない川面を見つけて流れに立ち込んで覗いてみると…カゲロウやカワゲラの幼虫が、夏場と同じように大小様々な石にへばりついて動き回っています。天敵である魚たちは流れの緩い深い淵でじっと越冬していますから、冬の川の水中はいわば水棲昆虫のパラダイス。水から取り出すと、寒気でたちまち凍ってしまうので要注意です。水の中の方が彼らにとっては今は安全。



冬のトレッキングで川の中からエゾアカガエルが出てきたことがあります。川底で冬眠していたのではないのでしょうか？

昔、新釧路川の水が落ちる時期に、河口に近い新富士海岸(現在の西港あたり)の砂浜で、打ち寄せられた毛ガニやホッキと一緒にカエルがいたのを何年も見えています。産卵が始まるずっと早期に、陸地ではなくなぜ波打ち際に多数のカエルがいるのか、子供心に不思議でした。

大人になってもカエルは土の中や倒木の下や分厚い落ち葉の層の下で冬眠するものと思っていました。しかし、今まで、そういうところで越冬しているカエルの実物に出会ったことがない。

札内川で見つけたカエルはガリガリに痩せたカエルでなくふっくらとしていたので、もしかして、「冬は川底で水生昆虫の幼虫を捕食している」という珍説を検討してみます。

また、札内川が、流路の果て、いずれ海に流れこむ大津海岸の波打ち際で、越冬していて流されてきたカエルを探すイベントを企画してみたい。



川と河畔林を考える会代表
たかくら ゆういち
高倉裕一

札内川では採れない十勝石

札内川では十勝石(黒曜石)を拾うことは出来ません。

なぜでしょうか？

2つに割ると真っ黒で、つややかな貝殻状の割れ口を見せる十勝石。正式には黒曜石と言いますが、北海道ではもっぱら十勝石の名称で親しまれています。

さて河原の石は上流の山体を川が削って下流へ運ばれて来ますが、河原の石の種類を良く調べて見るとその山

体の生いたちを知ることができます。十勝石(黒曜石)は火山活動で出来たガラス質の石です。十勝平野の中央部では音更川、土幌川、居辺川などで河原で拾うことが出来ます。音更川などの上流の十勝三股付近が産地です。約180万年前、150年前、十勝北部で激しい火山活動があり、真っ赤などろどろの黒曜石溶岩流が噴出したと考えられています。

日高山脈から流れ出る川、札内川、歴舟川、美生川などでは全く十勝石を拾うことは出来ません。日高山脈は火山活動で出来た山々ではなく、プレートとプレートの衝突によって形成された山脈なので日高山脈から流れ出る河原の石には火山活動で出来た十勝石(黒曜石)はまったく拾うことが出来ないのです。道内では黒曜石は白滝、赤井川が産地として確認されています。音更川流域の黒曜石は1910年、帯広市西2条南4丁目に店開きした坂本勝宝堂が帯広刑務所の前庭、帯広監獄の囚人たちの細工したものを全国に売り出したことから黒曜石の代名詞として「十勝石」の名で広まるようになりました。

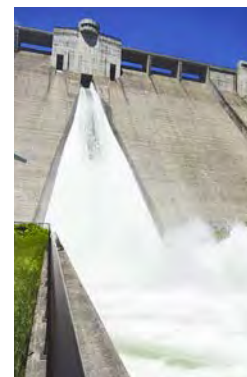


十勝川中流部市民協働会議
もみじ かつや
紅葉克也

札内川フラッシュ放流

札内川では、2012年から札内川ダムでのフラッシュ放流が行われています。札内川ダムの建設により洪水の危険性が小さくなりましたが、川の流れが安定したことで広い河原にヤナギがたくさん生えるようになりました。フラッシュ放流とは、人工的に小規模の洪水を起こすことでヤナギの増加を抑えて、札内川本来の広い河原を再生することが目的です。札内川は帯広工業高校環境土木科1年生の測量授業のフィールドにもなっていて、札内川懇談会は測量のお手伝いをしました。工業高校の生徒は、中学校を卒業したばかりなのに上手に測量が出来ていて、さすがしっかりしているなあ、という感じでした。

ダムからの放水はとてもダイナミックで、普段は見られないものです。人工的に洪水を起こすこととなり、釣り人や河川利用者の安全確保は大変ですが、晴天なのに濁流が音を立てて流れているアンバランスさが、とても珍しい風景となっています。毎年6月下旬に行われる1日だけのイベントです。



河川の豆知識

堤防のそばに立っている分数が書いてある標識はなあに？



距離標(キロポスト:KP)といって、河口からの距離を示しています。分数の分母は「Km」、分子は「百m」を表します。舗装された堤防に書かれた白い数字も河口からの距離(Km)です。写真の標識は札内川の左岸にある距離標で、十勝川との合流点から3.6km(左岸)の位置にあるを示しています。

ちなみに、川の左右岸は、川の上流から見て右が「右岸」左側を「左岸」と呼びます。



一級河川ってなあに？ 二級河川とどこが違うの？

一級河川: 国(北海道の場合は北海道開発局)が管理する水系のことです。

→札内川は一級河川の十勝川の支流になるため、一級河川になります。

二級河川: 都道府県(北海道は北海道庁)が管理する河川です。

→十勝地方では大樹町の歴舟川や広尾町の豊似川等、十勝川水系とつながっていない川が二級河川になります。



河川に関する用語を
詳しく知りたいときはこちら→



札内川懇談会について

札内川懇談会は『札内川について語り、「札内川」や「札内川らしさ」を活かし、地域の活性化、河川文化の継承等につなげること』を目的として、平成24年(2012年)から活動を始めました。

この期間、札内川の自然環境の調査や、観光につながるような新たな魅力を探ってきました。また、地元の保育園児から高校生とたちとともに札内川をフィールドにした活動も行ってきました。



札内川懇談会が取り組んできた主な活動



愛国大橋周辺での清掃活動



水質調査



水生動物調査



ダム放流前後の地形測量(高校生と連携)



ダム見学等観光ツアー



流木堆積場生物調査



湧水期トレッキング



厳冬期トレッキング



水生動物観察会



春の山菜採りと料理会



秋の木の果実採りとジュースづくり



防災学習会